

原発事故由来の
内部被ばくによる発がん

チェルノブイリ原発事故 避難集団の被ばく

国	人数 (千人)	平均実効線量 (mSv)		平均甲状腺 線量 (mGy)
		外部	内部 (甲状腺以外)	
ベラルーシ	25	30	6	1,100
ロシア	0.19	25	10	440
ウクライナ	90	20	10	330
合計	115	22	9	490

mSv : ミリシーベルト mGy : ミリグレイ

出典 : 国連科学委員会 (UNSCEAR) 2008年報告より

チェルノブイリ原発事故に際して避難を余儀なくされた人々の甲状腺被ばく線量は高く、平均で約 500 ミリグレイと推定されています。これは、事故直後から 2～3 週間にわたって、ヨウ素 131 で汚染した牛乳を飲んだこと等が主な原因です。

避難地域以外の旧ソビエト連邦に居住していた人々の平均甲状腺線量は約 20 ミリグレイ、汚染地域に住んでいる人々の線量は約 100 ミリグレイとなっており、そのほか欧州諸国に暮らす人々の線量 (約 1 ミリグレイ) よりもはるかに高い結果になりました。

甲状腺被ばく以外の内部被ばくと外部被ばくからの実効線量は、平均で約 30 ミリシーベルトでした。平均甲状腺線量同様、平均実効線量はウクライナやロシアよりもベラルーシにおいて高いことが分かっています。

本資料への収録日 : 平成 25 年 3 月 31 日

改訂日 : 平成 27 年 3 月 31 日